

## 2020年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	澤野 純一
顕彰科目名	相談援助演習 I 8
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <p>本科目は、実習の準備科目です。翌年、多くの学生が「現場」、利用者の方々にとっての「生活の場」に入っていくこととなります。よって、本科目では「現場に学ぶ」ための土台を作る必要があります。</p> <p>そのための手段として、体験学習やロールプレイ、事例検討などの方法が考えられますが、その際に心がけていることがあるとすれば、まず、学生ひとりひとりの感覚や感受性を大切にすることです。特に学生ひとりひとりの生活の感覚を汲み取ることにより、生活の場で行われている支援の実際と利用者の方々の方々の生活の実際を絵空事ではなく、出来る限りリアルに感じられることを目指しています。</p> <p>加えて重要なのは、やはり良質の学習の素材を選び提供することであると思います。</p> <p>この掛け合わせがうまくいき、支援と生活の実際をリアルなものとして受け取ることが出来た場合、多くの学生が自然に自分の頭で考え、自分の心で感じられる様になり、学習が実りあるものとなるのではないかと考えています。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <p>上記の様な事柄を心がけてはいますが、至らない点も多々あり、更なる努力、工夫が必要と考えています。</p> <p>更に、実際の支援を展開する上で、利用者の方々、ご家族の方々に対する理解がいかに重要であるか、というテーマを伝える必要性があると考えています。</p> <p>しかし一口に理解と言っても、それは一朝一夕に出来ることではなく、時に大きく時間のかかる困難な作業である場合が多々あること。しかしその点にこそ、人間の奥深さと支援の仕事の奥深さ、そして魅力があることを伝えていければ、と思います。</p> <p>この事を通して、学生の皆さんに利用者の方々のご家族の方々に対する深い興味関心とリスペクトを持って、実習に臨んでいただきたいと思っています。</p>	